



ご挨拶

大西 隆
日本学術会議会長

日本学術会議は、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の分野を包摂する日本の科学者コミュニティの代表機関として、科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ることを任務として活動しています。なかでも「持続可能な社会の構築」については、学術研究の立場から幅広く継続的に検討を重ねてきました。ICSU や IAP/IAC といった国際学術団体において、地球サミット（持続可能な開発に関する世界首脳会議）以降、持続可能性に関する各種プログラムを立ち上げ、持続可能な地球社会の構築に貢献してきたという世界的な潮流の中、日本学術会議でも世界の動きに呼応する形で同様の貢献を果たしてきたものと考えています。

一方で、2011 年 3 月の東日本大震災の地震、津波、および東京電力福島第一原子力発電所事故の、住民の健康や生態系への影響、経済や社会生活への影響、世界のエネルギー政策への影響は、国内のみならず海外でも大きな関心事項となりました。日本学術会議では、昨年 10 月に「原子力発電所事故の影響に関する国際会議」、今年 1 月には「災害復興とリスク対応のための知」をテーマとする国際会議を開催しました。

今回の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」は、ICSU、IAP、IAC、国際連合大学との共催により、「巨大複合災害(地震・津波・原子力発電所事故) --- 影響波及と対策、および将来に向けての政策選択」をテーマとして開催いたします。基調講演は、IAC の共同議長として国際的な科学アカデミーの活動をリードしておられる Robbert Dijkgraaf 先生と、福島原発事故独立検証委員会有識者委員会委員長を務められた北澤宏一先生にお願いしています。また、ICSU の Yuan Tseh Lee 会長に特別講演をいただくことになっています。

セッション 1「生物生産地域への影響と復興への取組み」では、巨大自然災害が沿岸生態系に及ぼす影響に加え、巨大複合災害の第一次産業への影響の実態等に関する議論を行います。セッション 2「住民と労働者の放射線被ばく防護と健康管理」では、住民の外部被ばくと内部被ばくの状況や原発サイト内で働く労働者の被ばく状況および労働環境に焦点を当てます。セッション 3「原子力発電所事故および放射能汚染の調査と分析」では、事故原因の調査・分析、ならびに住民の放射線被ばくの調査の結果をもとに議論を深めます。セッション 4「原子炉の廃止・廃炉と今後の原子力利用」では、復旧・復興プロセスの国際的協力・共有に向け、事故原子炉の廃止措置や老朽化した原子炉の廃炉処置等について中長期的ロードマップやアクションプラン等に関し討議します。

この会議が、ご参会の皆様にとって実り多いものとなることを心から希望いたします。最後になりましたが、ご後援を賜りました日本経済新聞社に対して深い感謝の意を表して、日本学術会議を代表してのご挨拶といたします。